



<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	21件	25,000円	187件	224,258円
財団	0件	0円	4件	52,000円
バネファクター	0件	0円	0件	0円
米山	1件	10,000円	5件	60,000円

<米山奨学委員会>

大矢委員

中村会長→「53歳の誕生日を迎えることができました。年齢に恥じぬように精進してまいります！」。

本日のプログラム

<招聘卓話>

元ロータリー財団奨学生

現津田塾大学学長 高橋裕子様

1981年に川崎百合丘RCの最初の奨学生としてアメリカのカンザス大学の歴史学科で勉強する運びとなりました。その前に文部省の奨学金も頂いていたので文部省とRCで2年間続けて行くことができましたので修士を取得し、一旦日本に帰り最初に始めた筑波での修士を終えて1984年にもう一度アメリカに戻り、今度は博士課程の勉強を開始することとなりました。その時の思い出話なのですが、出発の前日か前々日に読売ランド駅周辺を母と一緒に歩いて時計の電池を替えに結城さんのお店に伺いました。私は9月が誕生日なのですが母が誕生日を目前に今日もしております誕生石の入った指輪を衝動買いしてくれました。それ以来お守り代わりにずっとこの指輪は壊れることなく私を守ってくれています。ちょうどその年津田梅子が育てのアメリカ人の父と母に送った書簡が発見されまして、私はその書簡を使って博士論文をまとめることとなりました。それが1989年でしたので、この指輪をもらってから5年もアメリカにおりそこから津田梅子の研究を始めることとなりました。日本に戻ってから1990年に桜美林大学の国際学部でアメリカ研究を教えることとなりました。その後両親が次々に病気になり、1990年代は最初に母を聖マリアンナで見送り次に父を見送り、子育てと両親を見送ることとなった10年でした。1997年に津田塾大学に転出することとなり桜美林大学で7年間勤務させて頂いてから母校に戻りました。2000年がちょうど津田塾大学100周年だったのでそれに関連するイベントや本の執筆プロジェクトに加えて頂きました。2003-04年にフルブライト奨学金を得てスタンフォード大学に小学5年生の息子と行くことができました。息子とそのような時間を持てたことは貴重なことでした。それから10年ほど国内で仕事をし2013年から14年に再びフルブライト奨学金を得て東海岸のヒラリークリントンの

母校であるウェルズリーという女子大学でもう一年間学びました。女子大学の研究や女性のリーダーシップの研究を行い、津田梅子の研究とあわせて現代的なことについても今研究を行っているところです。2014年に帰国し、2016年4月1日より第11代目の津田塾大学学長を拝命することとなりました。私は縁というものを強く感じています。私が大学院生だった頃にたまたま津田梅子の書簡が大学の屋根裏から発見されました。アメリカの育ての父母に宛てた500通近い書簡が眠っていたのです。この建物自体は関東大震災後に建てられ、太平洋戦争中はこの小平の校舎内に軍事工場ができ、学生は軍事工場で働くようになりました。英語で書かれたものが無造作に置かれていると没収されるかもしれないので、わかりにくいところに誰かが移動させたのではないかと考えられています。1984年3月に卒業する学生達が学校内を冒険した時にこの書簡が発見され全国ニュースになりました。学術目的でこの書簡を使って博士論文をまとめることができた最初の研究者になったということはお縁がありとても幸運なことだったと思います。2000年に津田塾大学100周年を迎え、その年にこの大学の専任教員としていられたことで津田梅子のドキュメンタリーフィルムの制作のお手伝いをさせて頂いたり、あるいはその中で話をさせて頂いたり、あるいは『そのとき歴史が動いた』『歴史秘話ヒストリア』『知恵泉』などのテレビ番組で津田梅子の研究者としてお話をさせて頂いております。津田塾大学は2017年4月1日から千駄ヶ谷に新しい学部を創設しました。女子大学としては初めての総合政策学部です。新しい学部を創設する時に学長でいられたというのはこれも一つのお縁だと思っております。女性が政策を作り仕組みを作る側にまわられるような教育を提供することを意図してこの総合政策学部を創設しました。

私は年若い頃アメリカで様々な研鑽を積めたことが今の教員としてのまた学長としての基盤を作ってくれた9年間であったと思います。その貴重な9年間のうちの一年間をロータリーの皆様にお支え頂いたことを感謝しております。



<点鐘>

中村会長